

研究指導計画

経済学研究科

【修士(M.A.)プログラム】

<研究指導体制>

順次的・体系的に知識を獲得させるため、「導入科目」「基礎科目」「専門科目」を置き、1年次には「導入科目」「基礎科目」を中心とした履修、2年次には「専門科目」を中心とした履修を行わせるべく、オリエンテーション時に指示している。

このような科目の履修により知識を得つつ、研究内容を段階的に高度化及び深化させ、最終的には、修士論文（リサーチペーパー）作成・修了に至ることになる。

研究指導は、主に指導教員が行うが、加えて、2年次に2回ワークショップ（合同での中間報告会）での報告を院生に課す。ワークショップでは、指導教員以外の教員からの指導を行うとともに、院生に院生同士の議論に参加させ、院生の主体的な研究活動を支援する。

<スケジュール・内容>

1年次

月日	スケジュール	内容
4月初旬	オリエンテーション	研究倫理の説明を含む、教育・研究についてのオリエンテーション。
4月中旬	指導教員承認届の提出	あらかじめ希望指導教員への連絡を行ったうえでの、調整・確定。
4月～1月	講義科目の履修	導入科目群、基本科目群の科目内容を中心とした講義科目の履修。
	論文指導 I A/B	学位論文執筆に必要な基礎知識および応用知識養成のための指導。
	[留学生]特別講義 I A/B, II A/B (推奨)	学位論文執筆に必要な日本語能力の修得（留学生向け）。

2 年次

月日	スケジュール	内容
4 月中旬	指導教員承認届の提出	
4 月～1 月	講義科目の履修	専門科目群の科目内容を中心とした講義科目の履修。
	論文指導ⅡA/B	学位論文執筆の問題意識の設定と、論文執筆遂行のための指導。
	[留学生]特別講義ⅢA/B (推奨)	学位論文執筆に必要な、より高い水準の日本語能力修得 (留学生向け)。
7 月上旬	修士ワークショップ A	修士論文執筆にむけての中間報告会。その前後の指導教員による指導とあわせ、研究内容の向上をはかる。
10 月中旬 ～下旬	修士論文予備登録	
12 月上旬	修士ワークショップ B	修士論文執筆にむけての中間報告会。その前後の指導教員による指導とあわせ、研究内容のより一層の向上をはかる。
1 月上旬	修士論文 (リサーチペーパー) 提出〆切	
1 月下旬	口述試験	研究科教授会メンバーによる、修士論文 (リサーチペーパー) の口述試験。
3 月下旬	修士学位授与	

注 1 : 修士論文からリサーチペーパーへの振替には、予備登録時、指導教員による許可を必要とする。(口述試験後の振替も可。ただし、この場合も指導教員による許可を必要とする。)

注 2 : 在学年数が 2 年を超える修士院生のスケジュールは 2 年次と同様のスケジュール。ただし、そうした学生は 9 月修了 (9 月中旬学位授与) が可能であり、その場合には、6 月上旬予備登録、6 月下旬～7 月上旬論文提出、7 月下旬口述試験となる。

注 3 : M. A. /Ph. D. プログラムの「転プログラム」について、(i) 新入生は 4 月のオリエンテーション後、(ii) 在學生は 2 月末に可能。

注 4 : 旧カリキュラム生 (2014～2016 年度入学者) は、論文指導 I A/B が (「研究指導科目群」でなく) 「基本科目群」にカウントされる。

【修士(M.A.)プログラム)、1年制コース】

＜研究指導体制＞

すでに学部等である程度の科目を先取り履修してきた学生や、シンクタンク等ですでに経済学の研究に携わっている者を想定し、M.A.プログラムの2年間の内容を1年間で修得させる。科目の履修により知識を得つつ、研究内容を段階的に高度化及び深化させ、最終的には、修士論文作成・修了に至ることになる。

研究指導は、主に指導教員が行うが、加えて、2回のワークショップ（合同での中間報告会）での報告を院生に課す。ワークショップでは、指導教員以外の教員からの指導を行うとともに、院生に院生同士の議論に参加させ、院生の主体的な研究活動を支援する。

＜スケジュール・内容＞

月日	スケジュール	内容
4月初旬	オリエンテーション	研究倫理の説明を含む、教育・研究についてのオリエンテーション。
4月中旬	指導教員承認届の提出	あらかじめ希望指導教員への連絡を行ったうえでの、調整・確定。
4月～1月	講義科目の履修	講義科目の履修。
	論文指導 I A/B	学位論文執筆の問題意識の設定と、論文執筆遂行のための指導。
	[留学生]特別講義 I A/B, II A/B, IIIA/B (推奨)	学位論文執筆に必要な、より高い水準の日本語能力修得（留学生向け）。
7月上旬	修士ワークショップ A	修士論文執筆にむけての中間報告会。その前後の指導教員による指導とあわせ、研究内容の向上をはかる。
10月中旬 ～下旬	修士論文予備登録	
12月上旬	修士ワークショップ B	修士論文執筆にむけての中間報告会。その前後の指導教員による指導とあわせ、研究内容のより一層の向上をはかる。
1月上旬	修士論文提出〆切	
1月下旬	口述試験	研究科教授会メンバーによる、修士論文の口述試験。
3月下旬	修士学位授与	

注1：1年制コースの場合には、修士論文からリサーチペーパーへの振替は認められない。（留年した場合には可。）

【博士5年(Ph.D.)プログラム】

1,2年次については、専門的に高度な知識の修得のため、QE（博士論文基礎力審査）試験関連科目を中心とした履修を行わせる。このような科目の履修により、院生は、専門知識を得、研究内容を段階的に高度化及び深化させ、3年次以降からの博士論文執筆にそなえ、指導教員の指導のもと、研究計画書を作成する。

博士5年（Ph.D.）プログラムは、修士（M.A.）プログラムと異なり、専門知識の習得に重点をおいた修士課程となる。そのため、修士論文に替えてQE試験合格が修了要件となる。「QE筆記試験」「修士課程の修了所要単位を修得、そのうち専攻分野での一定単位（一定以上の成績）を修得」かつ「研究計画書に基づく最終口述試験」を満たした者に対し、修士号を授与する。

3年次以降、博士論文完成に至るまで、指導教員が主たる指導を行うが、加えて、毎年2回のワークショップ（合同での中間報告会）での報告を院生に課す。ワークショップでは、指導教員以外の教員からの指導を行うとともに、院生に院生同士の議論に参加させ、院生の主体的な研究活動を支援する。また、研究内容をさらに高度化及び深化させるための、専門科目の履修も行わせる。

<スケジュール・内容>

1年次

月日	スケジュール	内容
4月初旬	オリエンテーション	研究倫理の説明を含む、教育・研究についてのオリエンテーション。
4月中旬	指導教員承認届の提出	あらかじめ希望指導教員への連絡を行ったうえでの、調整・確定。
4月～1月	講義科目の履修	各自の専攻分野科目、およびQE筆記試験の対象となる基本科目内容を中心とした講義科目の履修。
	[留学生]特別講義ⅠA/B,ⅡA/B (推奨)	学位論文執筆に必要な日本語能力の修得(留学生向け)。
1月下旬	QE筆記試験	「経済史」「計量経済学」「社会経済学」「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「その他」科目から2科目まで受験。

2 年次

月日	スケジュール	内容
4月中旬	指導教員承認届の提出	
4月～1月	講義科目の履修	各自の専攻分野科目、および、1年次未修得のQE筆記試験の対象となる基本科目内容を中心とした講義科目の履修。
	[留学生]特別講義ⅢA/B（推奨）	学位論文執筆に必要な、より高い水準の日本語能力の修得（留学生向け）。
1月上旬	研究計画書提出〆切	
1月下旬	QE筆記試験	1年次で2科目合格していない場合、ここで2科目合格を満たすよう、追加受験。
	QE口述試験	研究科教授会メンバーによるQE口述試験。ただし、この口述試験は、QE筆記試験合格・QE対象基本科目の修得・専攻分野科目についてのGPA要件を満たし、研究計画書を提出した者のみを対象とする。
3月下旬	修士学位授与	QE試験に合格した学生に修士の学位を授与し、博士後期課程の進学を認める。

3～5 年次

博士後期課程のスケジュールと同一。

注1：Ph. D. /M. A. プログラムの「転プログラム」について、(i)新入生は4月のオリエンテーション後、(ii)在學生は2月末に可能。

注2：Ph. D. プログラム4年制コースの場合には、「M. A. プログラム1年制コース」の内容が、1年目のスケジュール・指導内容となり、あとは3～5年次の内容が、それぞれ、博士後期課程1～3年次のスケジュール・指導内容となる。

注3：在学年数が2年を超える修士学生のスケジュールも同様のスケジュールとなる。ただし、QE試験は年1回（年度末）なので、秋学期修士修了は可能であるが、博士後期課程への進学は修了した翌年の4月となる。（詳しくは『大学院要項』を参照のこと。）

【博士後期課程】

博士論文完成に至るまで、指導教員が主たる指導を行うが、これに加えて、毎年2回のワークショップ（合同での中間報告会）での報告を院生に課す。ワークショップでは、指導教員以外の教員からの指導を行うとともに、院生に院生同士の議論に参加させ、院生の主体的な研究活動を支援する。また、研究内容をさらに高度化及び深化させるための、専門科目の履修も行わせる。

1 年次

月日	スケジュール	内容
4月初旬	オリエンテーション	研究倫理の説明を含む、教育・研究についてのオリエンテーション。
4月中旬	指導教員承認届の提出	あらかじめ希望指導教員への連絡を行ったうえでの、調整・確定。
4月～1月	講義科目の履修	専攻分野における知見を高めるための、各自の専攻科目を中心とした履修。
	論文指導ⅢA/B	研究計画書に基づく文献のサーベイ、より高度な分析能力の取得。
7月上旬	博士ワークショップⅠA	博士論文の中間報告。その前後の指導教員による指導と合わせ、研究内容の向上をはかる。
12月上旬	博士ワークショップⅠB	博士論文の中間報告。その前後の指導教員による指導と合わせ、研究内容のより一層の向上をはかる。

2 年次

月日	スケジュール	指導内容
4月中旬	指導教員承認届の提出	
4月～1月	講義科目の履修	専攻分野における知見を高めるための、各自の専攻科目を中心とした履修。
	論文指導ⅣA/B	博士論文の一部となるような学術論文の執筆。学会・研究会等での報告が可能な論文作成をめざす。
7月上旬	博士ワークショップⅡA	博士論文の中間報告。その前後の指導教員による指導と合わせ、学会・研究

		会にむけての予行演習となるような機会とする。
12月上旬	博士ワークショップⅡB	博士論文の中間報告。その前後の指導教員による指導と合わせ、学会・研究会にむけて、完成度の高い予行演習となるような機会とする。

3年次

月日	スケジュール	指導内容
4月中旬	指導教員承認届の提出	
4月～1月	講義科目の履修	専攻分野における知見を高めるための、各自の専攻科目を中心とした履修。
	論文指導VA/B	当該年次および全年次までに執筆した学術論文および文献サーベイから博士論文へのまとめをめざす。
7月上旬	博士ワークショップⅢA	博士論文の中間報告。その前後の指導教員による指導と合わせ、博士論文としての構成および学術的貢献を客観的に確認する。
9月末	博士論文（課程博士）申請	最短で博士号取得の場合の申請期限。申請にあたっては、指導教員の承諾書が必要。
12月上旬	博士ワークショップⅢB	博士論文の中間報告。その前後の指導教員による指導と合わせ、博士論文としての完成をめざす。
10月～2月	博士論文審査	博士論文申請後、研究科教授会は審査委員会を立ち上げ、提出資格の有無の確認等、受理の可否を審議する。審査委員会での受理決定後、審査小委員会を設置し、審査小委員会は、論文内容の審査および公聴会（公開審査会）による審査を行い、学位授与の可否についての意見を添え、審査委員会に報告をする。そして、審査委員会における学位授与の審議に基づき、研究科教授

		会での議を経て、学位授与を決定する。
3月下旬	博士学位授与	9月下旬に申請した場合での学位授与。

注1：在学年数が3年を超える博士後期学生のスケジュールも同様。ただし、そうした学生は9月修了（9月中旬学位授与）が可能であり、その場合には1月末が博士論文申請期限となる。

注2：課程博士、論文博士の区分については、大学院全体の規程によるものとする。

注3：2016年度以前の入学者（旧カリキュラム生）については「博士ワークショップⅠA/B, ⅡA/B, ⅢA/B」の代わりに「博士ワークショップA/B」の履修となり、3年間で、2回の報告で修了可能である。ただし、希望者はそれ以上の報告が可能である。また、履修科目等の条件は『大学院要項』を参照してほしい。